

## 2. ディベートによる沖縄学習

仲田 恵子

● 研究旅行で沖縄を訪れる前に、生徒の沖縄に関する事前調査と一助として「沖縄の米軍基地は撤廃すべきである」という論題でディベートを計画した。折しも9月4日の夜。沖縄本島北部地域でアメリカ軍兵士による女子小学生暴行事件が発生し、これを発端に沖縄の抱える様々な問題、日本地位協定、米軍用地強制使用の問題などが連日報道されていた。歴史的、政治的状況から見ると、沖縄にすでに存在する基地の是非についてディベートで討議するのは無理があるが、沖縄学習の一手段として、資料も豊富な10月にディベートを行うことにした。

### 1. ディベート学習目標

● 高校2年生は11月15日～18日に沖縄へ研究旅行に出かける予定であった。1学期に活動の班を各クラス6班編成し、フィールドワークやグループ研究の準備をしてきた。2学期前半ではディベートを通して生徒一人一人が多面的視野から沖縄の抱える問題を認識し、理解を深め、賛否両論の立場をふまえてそれぞれ自分の考えを形成することができるよう学習することを目標とした。

具体的には、米軍基地の問題についての調査活動、及び討論活動を通して①「人権、平和、国際理解」の視点から論題に関する理解を深めると同時に、②筋道の通った論理の組み立てをし、発言する練習を通して「論理的思考力」、「表現力」を身につけさせる。また、③自分と異なるものを認め、他の考えを客観的に判断する「客観的判断力」を育てることである。

活動の班にはディベートの得意な者もそうでない者もいるので、互いに励まし合いながら協力してディベートをすることにより、沖縄問題に対する理解を深められるよう班活動を指導することが重要である。

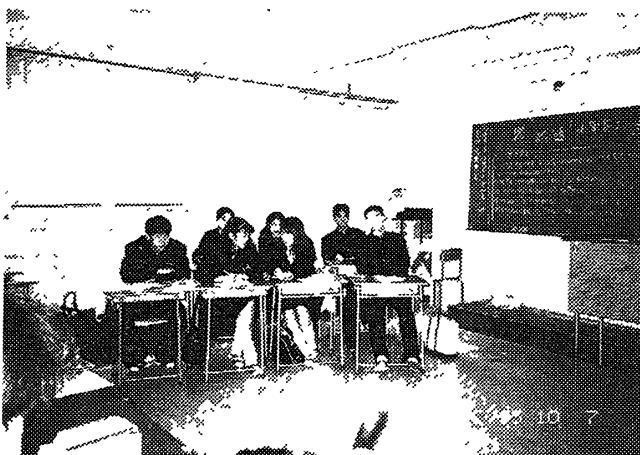
### 2. 学習形態・授業計画

50分の授業時間内で終了することができるよう、ディベートの形式及び係り分担は独自のフォーマットで行った。(資料1 ディベートの指導課程参照)

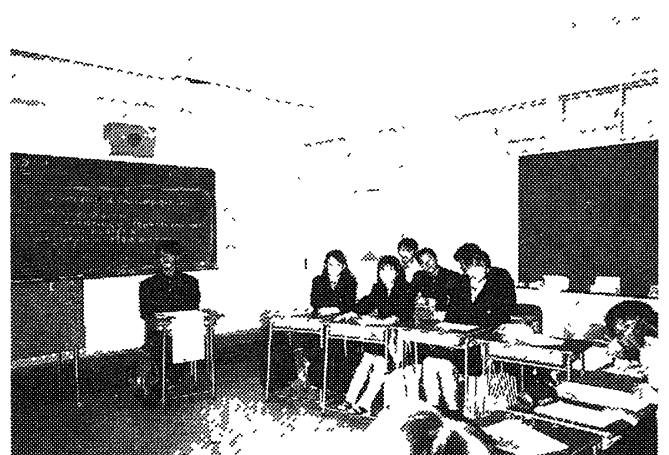
各クラス6班の活動班で、肯定側、否定側、議長団(各1班)、判定員(3班)を交代で役割分担した。議長団には司会、書記、タイムキーパー、アドバイザーが含まれる。アドバイザーは立論、質疑応答、最終弁論のそれぞれの段階でどちらが優勢であったかを最後に批評する係とした。判定員はディベートの最後に優勢な方に投票して勝敗を決める係とした。担任団は全員で上記の役割を分担し説明と指導に当たった。

9月30日にディベートについてオリエンテーションを行い役割分担を決めた。10月7日に1回目の練習試合を行った際は、基地撤廃に反対する否定側が3クラスとも優勢であった。役割を交代して10月24日に2回目の練習試合を行った。肯定側が2クラスで優勢、否定側が1クラスで優勢であった。10月26日に各クラスから代表する班が選出され、11月2日に3クラス合同のディベートを行った。この時は、肯定側が勝利した。総合得点は肯定側149点、否定側145点であった。

生徒は判定員として仲間のディベートと評価すると同時に、自分でもディベート体験前と体験後で沖縄の



肯定側



議長・否定側

米軍基地についての理解がどのように深まり自分の考え方が変化したかを調査用紙に記入して自己評価を行った。(資料2 ティベートの個人評価表参照)

### 3. ティベートの役割分担

肯定側・否定側(各1班)

論旨を裏付ける資料を提示しながら弁論する。お互いに相手側の議論を覆す弁論をする。聴いている人が納得し、支持してくれるような議論を展開する。

議長(1名)

ティベートの開始から終了までの司会進行。発言者を指名する。

書記(2名)

作戦タイムの間に肯定側、否定側の論旨を黒板に書く。肯定側の論旨は前もって肯定側がB紙に書いておいたものを掲示する。否定側の論旨は発言中にノートに記録して板書する。

タイムキーパー(1名)

ストップウォッチで計時、残り時間を発言者に知らせる。残りの時間を示すパネルを作る。時間がきたら、「時間です」と警告する。

アドハイサー(判定員代表)(3~4名)

各自で議論をノートを取りながら聴き、肯定側、否定側の討論活動がどのように行われたか、主要な論点についてどちらの議論が優勢であったかを批評する。

判定員(残りの班)

各自で議論をノートを取りながら聴き、最後に優勢な方に投票する。論議が優勢であった側を客観的に正しく判断する。

(資料3 ティベートノート、資料4 判定表参照)

### 4. ティベートの準備

ティベートを成功させるためには、背景知識を得ると同時に論点を支える証拠資料を探す「リサーチ」、相手の議論を覆すための「作戦会議」、審判や観客を説得する「スピーチの練習」が不可欠である。

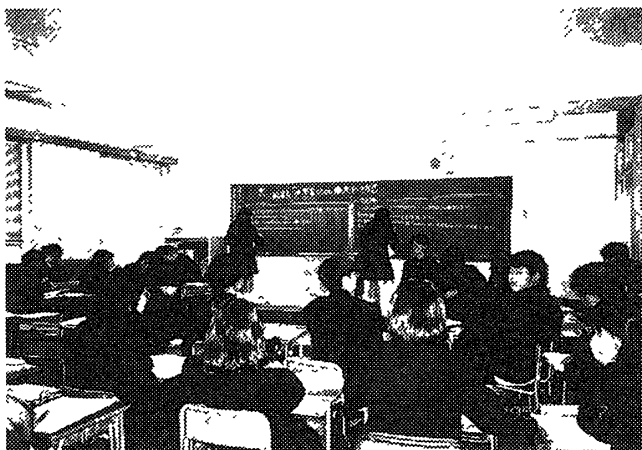
2学期の学校祭後にティベートを設定したため、中間試験が間に入り、論点を提示されてからティベート練習試合まで日数がなかった。本来ならば、試合当日くじを引いて肯定側、否定側を決定するので、各チームが肯定、否定両方の議論を準備するのであるが、練習試合ではあらかじめ肯定側、否定側を決めて準備にとりかかった。リサーチの段階で生徒は図書館、新聞雑誌、パソコンなどで十分とはいえなかったがある程度の資料を集めた。また、部活動の合間に取り組んだため班の作戦会議や弁論の練習も不足していたが、試合では積極的に攻めていて、議論もかみ合っていたので、初めての取り組みとしては成功したといえるであろう。

### 5. 結果

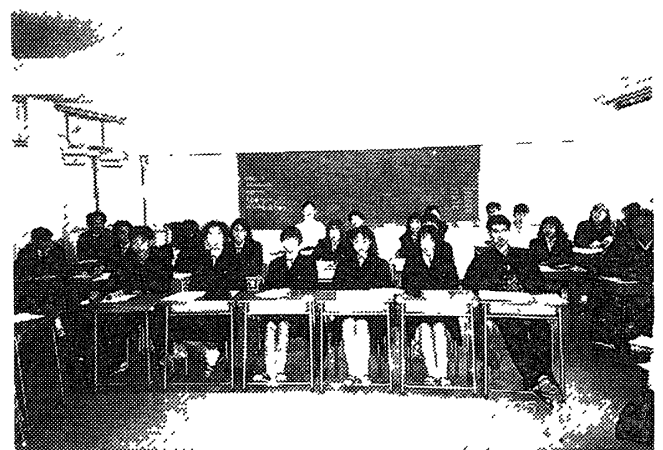
ティベートの実施前後で、米軍基地に対する考え方を問う質問をした。資料2の「沖縄の米軍基地についてあなたはどのように思いますか」という質問である。

米軍基地を撤廃すべきであるか否か

	撤廃すべきである	撤廃すべきではない	わからない
ティベート前	68	11	30*
ティベート後	58	15	31*



作戦タイム、書記が論旨を板書



アドハイサー、タイムキーパー、判定員

ディベート前の調査では「わからない」と答えた生徒の30名のうち17名は「沖縄についてよく知らない」と答えていた。ディベート後では「わからない」と答えた生徒31名のうち「よく知らない」と答えた生徒は2名に減った。一方「どちらの意見も筋道が通って納得できるのでどちらともいえない」「肯定側の意見も、否定側の意見も正しいから」と答えた生徒が多かった。

ディベート後に「基地は撤廃すべきだ」と答えた生徒は58名で、「基地は撤廃すべきではない」と答えた生徒が15名であった。この中にディベートの試合で自分が肯定側だったので「基地は撤廃すべきだ」と答えた生徒が1名、否定側だったので「基地は撤廃すべきではない」と答えた生徒が2名いた。この3名は、自分がりサーチし、練習した側の議論に傾いている。今回は時間的な制約のため、各自が肯定側と否定側の両方を体験することができなかつたので、このような偏りが出たと考えられる。練習試合を2回から3回に増し、肯定側と否定側の両方の議論を練習することが望ましいと考えられる。

次に、ディベートをする前とした後で沖縄の基地問題に対する意識がどのように変化したかを調査した。

(資料2 ディベートの個人評価表の質問項目3)

①沖縄の基地問題に対する意識

	低					高	平均
	1	2	3	4	5		
ディベート前	10	39	36	10	8		2.7
ディベート後	1	0	23	44	33		4.1

②沖縄の基地問題に対する理解度

	浅				深	平均
	1	2	3	4	5	
ディベート前	21	44	31	5	2	2.3
ディベート後	1	9	31	53	9	3.6

③沖縄の基地問題に対する意見

	無					有	平均
	1	2	3	4	5		
ディベート前	27	36	28	7	6		2.3
ディベート後	1	10	45	34	14		3.5

④ディベートに対する興味・関心

	低					高	平均
	1	2	3	4	5		
ディベート前	19	35	30	11	7		2.5
ディベート後	6	9	32	26	29		3.6

上記の①～④の項目について5段階で点数化した。ディベート後にはすべての項目でポイントが約1点上がっている。この結果から、生徒はディベートをすることにより沖縄の基地問題に対して意識が高まり、理解が深まり、自分の意見を持つようになり、興味関心が高まったといえる。

次の表は、ディベートに対する自分の取り組みを生徒が自己評価した結果の集計である。

(資料2 ディベートの個人評価表の質問項目4)

①沖縄の基地問題について準備をしたかどうか

無	よく準備した					合計	平均
	1	2	3	4	5		
23	33	24	16	7	103	2.5	
22.3	32.0	23.3	15.5	6.8	%		

②班の仲間や友人と議論したかどうか

無	よく議論した					合計	平均
	1	2	3	4	5		
12	28	26	23	14	103	3.0	
11.7	27.2	25.2	22.3	13.6	%		

③沖縄の基地問題関連の資料を読んだかどうか

無	よく読んだ					合計	平均
	1	2	3	4	5		
11	16	33	31	12	103	3.2	
10:7	15.5	32.0	30.1	11.7	%		

④ディベーターとして自分は向いているかどうか							
NO				YES		合計	平均
1	2	3	4	5			
21	37	34	8	3	103	2.4	
20.4	35.9	33.0	7.8	2.9	%		

この結果からやはり準備時間の不足が考えられる。①では、肯定側と否定側に当たった班の生徒はある程度準備をしたが、判定員や議長団になった生徒は準備をしなかったことが考えられる。残念ながら生徒全員が肯定側、否定側を体験できなかったのが平等ではなかった。今後は両方の議論を体験できるように指導計画を立てることが必要である。

#### ⑤ティベートの感想

ディベートとして自分は向いているかどうかという前の質問④で、1～3点を付けた生徒の消極的な感想

- ・論理的に発言するのは難しい
- ・すぐに返答できない
- ・考えていることをうまく言葉で表現できない
- ・緊張する
- ・感情的になってしまう
- ・テーマについてよく知らない
- ・意見がない
- ・説得力がない

質問④で、3～5点を付けた生徒の積極的な感想

- ・前からやってみたく思っていた
- ・やってみると結構おもしろかった、楽しかった
- ・ディベートが好きだ
- ・もっと準備してよく理解していたら発言できたと思う
- ・班で協力してハランスよくできた
- ・反論が頭に浮かんでくる
- ・皆にほめられたてうれしかった
- ・やる気の出る内容ならばやりたい
- ・意見を言うのが好きだ

#### ⑥ティベートを経験することはほとんどのことに役立つ か最も自分に合うものを3つ選ぶ

項目	人数	%
多面的な視野から考える	65	22.9
客観的判断力	51	18.0
時事問題に関する知識を増やす	35	12.3
発表能力	34	12.0

論理的思考力	32	11.3
問題の本質を理解する	23	8.1
情報収集能力	14	4.9
よい聞き手になる	12	4.2
討論の方法を学ぶ	11	3.9
集中力	5	1.8
その他（協調性が生まれる）	2	0.7

合計 284

## 6. まとめ

11月2日に本校の研究協議会が開催され、高2の3クラス合同ディベートの公開授業では見学者が最も多く大変好評であった。全体的にすばらしいディベートで甲乙つけ難く、ディベーターも議長団も判定員も真剣に取り組むベストを尽くした。肯定側が勝利した。

「ディベートによる沖縄学習」についての自己評価の集計から見られるように、ディベートをする前は低かった沖縄の基地問題に対する意識や理解度は、ディベート後は高くなっている。また、基地問題の対してなんらかの意見を持っている生徒がディベート後に増加している。ディベートに対する興味・関心も高まっている。

生徒の感想としては「考えていることを言葉でうまく表現できない」「緊張する」「論理的に話せない」という生徒が多い一方で「ディベートをやってみたら面白かった」「結構好きだ」「班のみんなと協力して取り組めた」という感想もあった。班のメンバーの中には議論することが苦手な生徒もいるので、互いに助け合い協力して取り組めるよう指導する必要がある。また、全員が肯定側と否定側を練習できるように指導計画を立てることが重要である。

特にクラスや生徒会執行部、部活動のリーダーとして活躍している生徒たちはディベートを体験して「目覚めた」感があった。これを機にディベートの面白さを知り、議論することを楽しんだ生徒たちは現在高校3年生であるが、彼らの一部は高校生のディベート大会に参加を申し込み、準備をしている。

ディベートを授業で取り入れることにより、生徒は論題に関する理解や知識を深めるだけでなく、「リサーチ」の方法や論理的「議論」の方法を学ぶことができる。生徒の自己評価の集計からみても、ディベートの技術は生徒にとって「多面的視野」「客観的判断力」「発表能力」「論理的思考力」などを身につけることに役立つと考えていることかわかる。今後総合人間科では個人研究に加えて、可能な限りディベートのような学習形態も取り入れていくべきである。

資料1 ディベート指導過程 論題：「沖縄の米軍基地は撤廃すべきである」

生徒の活動・討論の流れ	指導の留意点及び評価
* 議長の司会開始	参加各班の紹介・ルールの説明
* 肯定側 立論 (5分) * 否定側 立論 (5分)	なぜその論題を支持するのか、また、しないのか、最終的な目的は何かを明確にし、スローガンを掲げる。 「定義」では言葉の解釈があいまいなものをはっきりさせる。 問題提起をするときは客観的な根拠を提示する。 準備段階では論旨の組立と同時進行で、新聞、雑誌、書籍などから資料を収集して調査活動を行う。どの項目をどの順序で発表するか、またどの資料を使うのかを決め、資料はB紙などに大きく書く。 資料は出典を明らかにする。 実行可能な解決案を出し、それが機能するかどうかを問う。 プランによってどのような効果が得られるのかを述べる。 聴いている人が納得し、支持してくれるような議論を展開する。 ・筋道立て、わかりやすく話す ・大きな声ではっきりと話す ・説得力のある根拠を提示する ・時間を有効に使う
* 作戦タイム (2分)	立論をふまえ、班で質問事項の確認をする。
* 否定側 質疑応答 (5分) * 肯定側 質疑応答 (5分)	質疑応答では、あいまいな点を明らかにし、相手から重要な発言を引き出し、後から続くスピーチに結びつける。 答えが短くなるように簡潔に質問する。 相手の出方を予測して、あらかじめ質問事項や応答を考え、だれが質問するのか分担しておく。 答える側は、相手側の質問する項目を予測し、それに備えて回答を準備する。質疑応答ではチームのだれが発言してもよい。感情的にならない。言葉使いは丁寧に。時間を上手く使う。 ・論点を整理して質問する ・適切な応答をする ・説得力のある根拠を提示する ・協力して取り組む
* 作戦タイム (2分)	質疑応答をふまえ、最終弁論の内容確認する。
* 否定側 最終弁論 (3分) * 肯定側 最終弁論 (3分)	最終弁論では質疑応答で引き出した相手の議論の弱点を延べ、自分たちの立論の項目をもう一度主張し、優立を訴えて印象を強める。第三者(判定員)を説得するために、はっきりとした口調でわかりやすく伝える。相手側だけでなく、判定員の方を見て意見を述べる。 ・質疑応答の内容をもとに話す ・筋道立て、わかりやすく話す ・大きな声ではっきりと話す
* アドバイザーの打ち合わせタイム (3分)	
* アドバイザー討論についての批評を発表 (6分) 立論について 質疑応答について 最終弁論について	各自で議論をノートを取りながら聴き、肯定側、否定側の討論活動がどのように行われたか、主な項目についてどちらの議論が優勢であったかを批評する。
* 判定員は判定得点集計 (2分)	各自で議論をノートを取りながら聴き、点数をつけ、アドバイザーの批評も参考に、優勢な方に投票する。論題についての自分の個人的な感情に流されたり、友達関係に左右されない。だれが発言したかではなく、発言の内容をしっかりと聴いて考え、優勢な側を客観的に判断する。
* 判定員は得点発表	合計点数を発表し、どちらが優勢か発表する。
* 議長の司会終了 * 指導教官よりディベートによる沖縄学習のまとめ	

資料2 デイバート 個人評価表 10.24.1995

1. 沖繩の米軍基地について、あなたはどのように思いますか。

	沖繩の米軍基地は 撤廃すべきである	沖繩の米軍基地は 撤廃すべきではない	わからない
どれかに○			
○をつけた理由 (どちらとも言えないときはその理由)			

2. 練習デイバートにおいて、あなたが担当した役割を書いて下さい。

	あなたの役割	その役割についての感想・意見
第1回デイバート		
第2回デイバート		

3. デイバートをやる前とした後を比較して下さい。番号に○をつける。

		デイバートをやる前	デイバートをした後
①	沖繩の基地問題に対する自分の意識 (重要な問題だと意識しているかどうか)	1 2 3 4 5 低  -----  高	1 2 3 4 5 低  -----  高
②	沖繩の基地問題に対する自分の理解度 (よく理解しているか、そうでないか)	1 2 3 4 5 浅  -----  深	1 2 3 4 5 浅  -----  深
③	沖繩の基地問題に対する自分の意見 (意見を求められた時に話せるかどうか)	1 2 3 4 5 無  -----  有	1 2 3 4 5 無  -----  有
④	デイバートに対する興味・関心	1 2 3 4 5 低  -----  高	1 2 3 4 5 低  -----  高

4. 自分の取り組みについて評価して下さい。

①	デイバートのために沖繩の基地問題について準備しましたか。	1 2 3 4 5 ほとんどしない  -----  よく準備した
②	デイバートのために班で、または友人と議論しましたか。	1 2 3 4 5 ほとんどしない  -----  よく議論した
③	沖繩の基地問題について新聞などの資料を読みましたか。	1 2 3 4 5 全く読まない  -----  よく読んだ
④	デイバーターの役割は自分に向いていると思いますか。	1 2 3 4 5 向いていない  -----  向いている
⑤	どうして④のように思えますか。	その理由
⑥	デイバートを経験することはあなたにとつてどんなことに役立ちますか、右の中から最も自分に合うものを3つまで選びなさい。	(1)論理的思考力 (2)客観的判断力 (3)発表能力 (4)よい聞き手になる (5)討論の方法を学ぶ (7)集中力 (6)時事問題に関する知識を増やす (9)情報収集能力 (8)多面的な視野から問題を考える (10)問題の本質を理解する (11)その他 (具体的に)

5. 今回は、11月2日(木)に3クラス合同の決勝大会を行います。この日にデイバートをやる場合のことを答えて下さい。

①	同じ論題で再度デイバートをしたいときは、どの役割がやりたいですか。下から希望するものを選んで下さい。	第1希望 第2希望
②	肯定側デイバーター 否定側デイバーター (デイバーターは発表者) 議長 タイムキーパー アドバイザー (批評) 判定員 (審判) 書記 (記録) 放送係 (マイク・スピーカー) ビデオ係 肯定側応援 否定側応援 (応援の人は資料などを準備するのを手伝う)	肯定側デイバーター 否定側デイバーター (デイバーターは発表者) 議長 タイムキーパー アドバイザー (批評) 判定員 (審判) 書記 (記録) 放送係 (マイク・スピーカー) ビデオ係 肯定側応援 否定側応援 (応援の人は資料などを準備するのを手伝う)
③	デイバート編成や各役割の分担は今のまま班で担当するのがいいですか。もし他のデイバート編成の提案があれば書いて下さい。	

年 組 番・氏名

資料3 ティベートノート 11月 2日

	肯定側	否定側
	チーム メンバー 近藤 片岡 中野 加藤 大橋 栗山	チーム メンバー 那須 近藤 藤井 梅田 河野 中村
立論	① 日本国内に軍隊が存在するの口 電圧違反。 ・沖縄米軍基地内民衆の平和意識を高める ・地主の同意も得ないまま土地が復旧 されていく。 ・米軍基地に「思いやり計算」としてたぐく 税金が使われている。	② 基地をなくすと失業率が増える ・シ・レーン防衛の重視 ・中立論 ・自衛隊の増強問題
質疑応答	肯定側の応答 ・電圧による平和はなしはなしでいって ・農作業などに専断する ・たぐく人の費用をばらばらにしている ・犯罪が解決するのだから 農民が安全にばらばら か	③ 否定側の質問 ・具体的に何が電圧違反なのか ・基地産業に従事する人はどうか ・思いやり計算について ・地位協定について
	④ 肯定側の質問 ・たぐく人の農民が基地産業に従事している ・基地は電圧違反か ・米軍の一部の犯罪について ・平和を望むところから 基地は必要か	否定側の応答 ・わかる ・裁判所が望んでいない ・米軍が犯罪を犯せば本格的に公衆怒りの同 じ犯罪も日本人がやっても本罪に変わりはない ・らまの日本の発展には 朝鮮戦争などの力 によって発展していった。
最終弁論	⑤ 基地があるからこり 沖縄の平和は絶対に 守れない。だから撤廃を主張して いる。	⑥ 沖縄の基地産業は必要であり 他の産 業に変わるものは少ない ・アジアが 常に平和というように なると 必要

β 組 番号・氏名

資料4 判定表 10月 24日

	評価の観点	肯定側	否定側
立論	・筋道立て、わかりやすく話していたか ・大きな声ではっきりと話していたか ・説得力のある根拠であったか ・時間を有効に使っていたか	5	4
質疑応答	・相手の質問に答えていたか ・論点を整理して質問していたか ・説得力のある根拠であったか ・討論が優勢であったか	5	5
最終弁論	・質疑応答の内容をもとに話していたか ・筋道立て、わかりやすく話していたか ・大きな声ではっきりと話していたか ・説得力のある根拠であったか ・時間を有効に使っていたか	4	4
その他	・資料は適切であったか ・調査活動をしつかりしていたか ・協力して取り組んでいたか ・感情的にならなかったか	4	5
合計得点		18	18
得点は各項目5点 合計20点満点とする			
判定 勝った方に○をつける		肯定側	否定側

感想  
 ・どっちの意見もしつかりと筋道か立ってわかっていく  
 とでもよかった。  
 ・両方の意見を聞くし 基地は撤廃すべきか、おぼえて  
 が決断できないう

β 組 番号・氏名

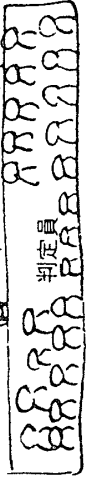
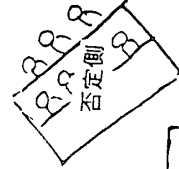
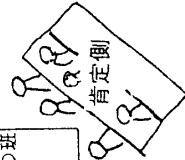
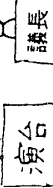
資料5 高2総合人間科 ティベートの準備

1071995

役割分担	役割の内容・留意点	人数配分
肯定側 否定側	ディベートは討論ゲームの場、説得力を競う場である。問題提起をするときは客観的な根拠が必要となる。準備段階では論旨の相立と同時進行で、新聞、雑誌、書籍などから資料を取集する調査活動を行う。どの項目をどの順序で発表するか、またどの資料を使うのかを決め、資料はB紙などに大きく書く(出典を明らかにする)。相手側の主張する項目を予想し、それに備えて反論を準備する。論旨を裏付ける資料を提示しながら、筋道立て、わかりやすく、聴いている人が納得し、支持してくれるような説論を展開する。自分たちの主張をはっきり述べよう。自由討論ではチームの考えを聞いて冷静に反論する。質疑応答・自由討論ではチームの考えを聞いて冷静に反論する。感情的にならない。言葉使いは丁寧に。時間を上手く使う。	各1班
議長	ディベートの開始から終了までの司会進行、発言者を指名する。	1名
書記	作戦タイムの間に肯定側、否定側の論旨を黒板に書く。肯定側の論旨は前もって肯定側がB紙に書いておいたものを掲示する。否定側の論旨は発言中にノートに記載し板書する。	1名
タイムキーパー	ストップウォッチで計時、残り時間を発言者に知らせる。残り時間を示すパネルを作る。時間が切れたら、「時間です」と警告する。	1名
アドバイザ 判定員 代表	各自で議論をノートを取りながら聴き、最後に優勢な方に投票する。筋道の通っていた側を客観的に正しく判断する。論議についての自分の個人的な感情に流されたり、友達関係に左右されない。だれが発言したかではなく、発言の内容をしっかりと聴いて考える	3~4名
判定員		残りの班

会場作り

黒板



討論の流れ		時間配分
議長の司会開始		11:25 1分
立論	肯定側 (演台に立つ)	5分
	否定側 (演台に立つ)	5分
作戦タイム		2分
質疑応答 自由討論 座席で立つ	否定側が質問する 肯定側が立つ(質問)	5分
	肯定側が質問する 否定側が立つ(質問)	5分
作戦タイム		2分
最終弁論	否定側 (演台に立つ)	3分
	肯定側 (演台に立つ)	3分
アドバイザーの打ち合わせタイム 判定員は判定得点集計を行う		3分
アドバイザー 討論についての批評を発表 (座席で立つ(批評))		立論について2分 質疑応答について2分 最終弁論について2分
判定員代表より結果発表 (座席で立つ(発表))		1分
指導教官の講評		9分



資料6 高2総合人間科 ディベートの準備 その2 10.23.1995

ディベートの基礎知識

項目	説明
ディベートとは	ある問題について、一定のルールに従って、相反する二つの立場に別れて行う議論である。
目的	真実に近づく。第3の価値を発見する。問題の本質を理解する。
基本的ルール	参加者は肯定側と否定側に分かれる。発言の持ち時間は平等である。質疑応答の時以外に相手の話に口を挟むことはできない。最初と最後は肯定側が話す。肯定側に立証責任がある。
論議の条件	論議には余地があること。意見の分かれる問題であること。論議には二つ以上の中心課題を盛り込まないこと。論議は肯定文であること。
ディベートで扱われる論議の例	「中学校では能力別教育を実施すべきである」「邪馬台国は九州にあった」「見合い結婚は恋愛結婚より望ましい」「腐死を合法化すべきである」「死刑制度を廃止すべきである」「閉鎖は非道徳的である」「自衛隊は廃止すべきである」「日米安保条約は継承すべきである」「日本は原子力発電所の建設を停止すべきである」など
ディベートの効果	客観的分析力・論理的思考力・発表能力を養う。よりよい聞き手になれる。取材や調査を通して情報収集力を身につけることができる。

役割分担

役割の内容・留意点

**肯定側・否定側のディベーター**  
 ディベーターは討論ゲームの場、説得力を競う場である。問題提起をするときには客観的な根拠が必要となる。準備段階では論旨の組立と同時進行で、新聞、雑誌、書籍などから資料を集める調査を行う。どの項目をどの順序で発表するか、またどの資料を使うのかを決め、資料はB紙などに大きく書く(出典を明らかにする)。相手側の主張する項目を予想し、それに備えて反論を準備する。論旨を裏付ける資料を提示しながら、筋道立て、わかりやすく、聴いている人が納得し、支持してくれるような議論を展開する。自分たちの主張はつきり述べる一方、相手の考えを聞いて冷静に反論する。質疑応答・自由討論ではチームのだれが発言してもよい。感情的にならない。言葉使いは丁寧に時間を上手く使う。

議長

ディベートの開始から終了までの司会進行を行う。発言者を指名する。

書記

作戦タイムの間に肯定側、否定側の論旨を黒板に書く。肯定側の論旨は前もって肯定側がB紙に書いておいたものを掲示する。否定側の論旨は発言中にノートに記録して板書する。項目だけでよい。

タイムキーパー

ディベート中の時間管理を行う。ストップウォッチで計時、残り時間を議長や発言者に知らせる。残り時間を示すパネルを作る。時間が切れたら、「時間で止む」と警告する。

アドバイザー

各自で議論をノートを取りながら読み、肯定側、否定側の討論活動がどのように行われたか、主な項目についてどちらの議論が優勢であったかを批評する。判定員全員の代弁をする。

判定員

各自で議論をノートを取りながら読み、最後に優勢な方に投票する。筋道の通っていた側を客観的に正しく判断する。論議についての自分の個人的な感情に流されたり、友達関係に左右されない。だれが発言したかではなく、発言の内容をしっかりと聞いて考える

◆肯定側・否定側の立論の立て方

立論は次の5つから成っています。これを参考に立論を立てましょう。

1. 哲学  
なぜその論議を支持するのか、また、しないのか、最終的な目的は何かを明確にする。スローガンを掲げる。
2. 定義  
言葉の解釈があいまいなものをはっきりさせる。今回は米軍基地を定義する必要がある。
3. 問題分析  
現在の問題の所在、深刻性、原因を詳しく述べる。資料やデータに基づいて分析すると効果的である。
4. プラン  
実行可能な解決案を出し、それが機能するかどうかを問う。
5. 効果  
プランによってどのような効果が得られるのか、また、どのような逆効果があるのかを述べる。

注意：立論の時に、必ず言いたいことはすべて言うこと。最終弁論の際に新しい議論を出してはいけません。

◆質疑応答の目的は、あいまいな点を明らかにし、相手から重要な発言を引き出し、後から続くスピーチに結びつけることです。答えが短くなるように簡潔に質問しましょう。相手の発言を予測して、あらかじめ、質問事項を考え、だれが質問するか分担して班の全員が発言できるようにしましょう。また、答える側も、どんな質問が来るかを予測して、だれがどの質問に答えるのか分担しておくくと便利です。

◆最終弁論は最後のチャンスです。質疑応答で引き出した相手の議論の弱点を述べ、自分たちの立論の項目をもう一度主張し、優位を訴えて印象を強めましょう。

◆ディベーターノートを取ることににより、双方の議論がどのように進んでいくのかが分かります。また、ディベーター自身もメモを取ることで、後からの質疑応答やスピーチのデータとなり役に立ちます。ディベーターの書いたことをメモに取りましょう。

◆ディベーターはあるひとつのテーマをめぐって、相対する2つのチーム(肯定側・否定側)にわかれ、一定のルール(時間・人数制限など)のもとで判定員や聴衆を説得する事を競い合い、判定によってその勝敗が決定される、知的ゲームのことです。基本的に第三者(判定員)を説得するゲームですが、はばかした口調でわかりやすく伝えましょう。また立論、最終弁論は相手側だけでなく、判定員の方を見て意見を述べましょう。

◆ディベーターはできるだけ平等に発言しましょう。一部の人のだけに発言が偏った場合は減点の対象となります。

◆ディベーターは紳士淑女の知的ゲームです。絶対に個人攻撃をしてはいけません。また判定員も好き嫌いでいるので片方に勝たせるといったのではなく、客観的に議論の内容を判断して勝敗を決めて下さいます。

資料7

第117号 1995.11.7  
名古屋大学教育学部附属  
高等学校二年学年日より

三ライカナイ

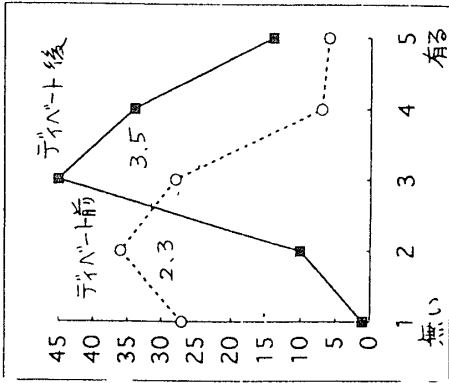
「ディベートによる沖縄学習」

11月2日は本校の研究協議会が開催され、各学年で公開授業と研究発表がありました。高2のみなさんは、受付、接待、ビデオ記録、放送、3クラス合同ディベート決勝戦（公開授業）と様々な役割がありました。みなさんの協力のおかげで公開授業・研究会は無事成功に終わりました。ありがとうございます。

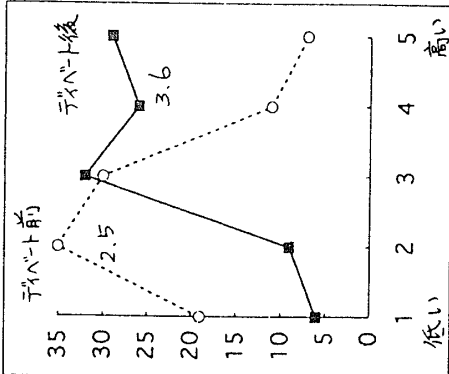
公開授業では高2のディベートの見学者が最も多く大変好評でした。名大の先生達は、みなさんのディベートに感心して、ビデオを大学生に見せたいと言われました。ディベートの最初に「定義」が抜けて残念でしたが、全体的にすばらしいディベートで甲乙つけ難く、ディベーターも議長団も真剣に取り組みベストを尽くしました。

参観者は、皆さんの白熱した議論から、沖縄の基地問題について多くのことを学んで帰られたことでしょう。皆さんはディベートを通して、沖縄の抱える重要な問題を社会に広めることができました。

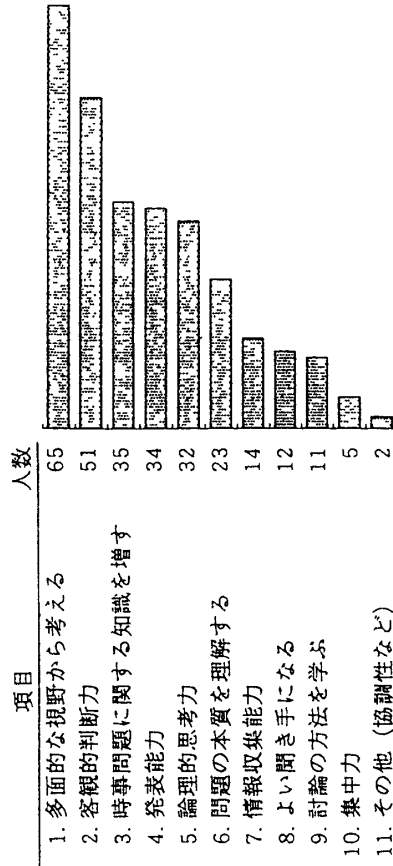
3. 沖縄の基地問題に対する意見



4. ディベートに対する興味・関心

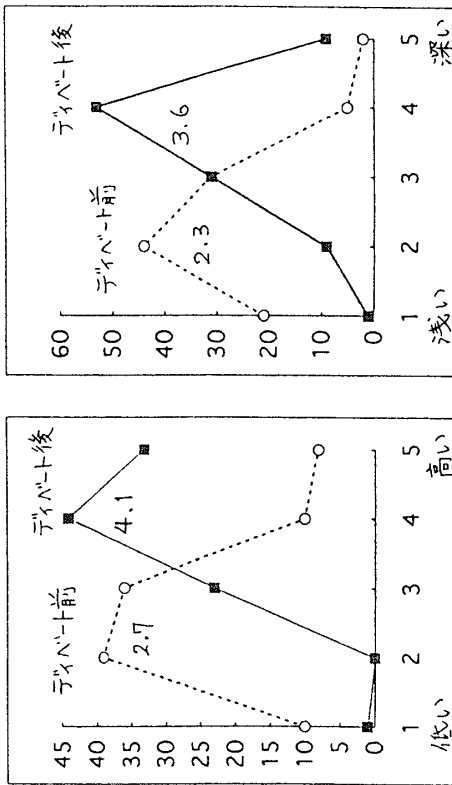


5. ディベートを経験することはどんなことに役立ちますか  
最も自分に合うものを3つ選びなさい。



ここに載せたグラフは「ディベートによる沖縄学習」についての自己評価の集計です。沖縄の基地問題に対する意識や理解度はディベートをする前は低かったのですが、ディベート後は高くなっています。また、基地問題に対してなんらかの意見を持っている人がディベート後に増加しています。ディベートに対する興味・関心も高まっています。「考えていることを言葉でうまく表現できない」「緊張する」「論理的に話せない」という人が多いのですが、「ディベートをやってみたら面白かった」「結構好きだ」「班のみんなが協力して取り組めた」という人もありました。将来が大いに期待されます。(4P)

2. 沖縄の基地問題に対する理解度



今週は遅刻防止週間です。11月9日(木)は受験英語早朝補習もありました。テスト範囲は参考書(桐原即戦ゼミ8)P.92~101です。今から頑張りましょう。実力アップのために頑張ってください。研究旅行もあと一週間になりました。保険証の「コヒ」をまだ提出していない人は急いで。前日に徹底して荷作りなごににならないように。11日(土)12日(日)に一応必要な物をそろえて下さい。